



ス ズ ト ク グ ル ー プ

# 環境社会報告書

# 2010



地球の大切な資源を次の世代に…  
それが、私たちの変あらぬ挑戦

N.1

スズトクホールディングス株式会社



# スズトクグループ企業理念

スズトクグループ9社は、「4つの責任」を企業理念とし、循環型社会の形成に貢献します



1. **お客様**に対する責任  
for Customer  
すべてのお客様・お取引先との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

2. **社員**に対する責任  
for Employee  
社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくります。

3. **社会**に対する責任  
for Society  
常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努め、資源リサイクル事業を進めます。

4. **株主**に対する責任  
for Stockholder  
バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

## 企業行動憲章

(社) 日本経済団体連合会

企業は、公正な競争を通じて利潤を追求するという経済的主体であると同時に、広く社会にとって有用な存在でなければならない。そのため企業は、次の10原則に基づき、国の内外を問わず、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって、持続可能な社会の創造に向けて自主的に行動する。

- 社会的に有用な製品・サービスを安全性や個人情報・顧客情報の保護に十分配慮して開発、提供し、消費者・顧客の満足と信頼を獲得する。
- 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行う。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保つ。
- 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示する。
- 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現する。
- 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動する。
- 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行う。
- 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決する。
- 国際的な事業活動においては、国際ルールや現地の法律の遵守はもとより、現地の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行う。
- 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させる。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図る。
- 本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努める。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上、自らを含めて厳正な処分を行う。



2010年7月、スズトクホールディングス株式会社は日本経済団体連合会に加盟しました。  
当グループは、企業行動憲章の理念を遵守し、循環型社会の一翼を担ってまいります。

本報告書の目次は27ページに掲載しています

# 「共生」の心を忘れずに、総合リサイクル業を推進します。

地球温暖化の防止や生物多様性の保全への取り組みが具体的に動き出しています。こうした中で持続可能な「循環型社会」を定着させるための活動が急務になってきました。

私たちスズトクグループは、循環型社会を具現化するために、これまで以上に使用済み製品を再生する様々な活動にチャレンジします。鉄や非鉄金属、プラスチック等の資源リサイクルを通じて、総合リサイクル業の更なる進展に尽力し、循環型社会の一翼を担っていきます。

グループの(株)鈴徳は創業106年、中田屋(株)は59年を迎えました。こうして事業を長く続けてこられたのも、お客様や地域、取引先などの皆様との信頼関係があったからこそと存じます。

「社会の公器」として、利益獲得だけに走るのではなく、「ギブ(与えること)」から始まる“ギブ・アンド・テイク”の姿勢を貫き、ステークホルダーの皆様と「共生」することこそが、これからも事業を発展させていく要であると考えます。

厳しい経営環境は続いていますが、「共生」の心を決して忘れることなく、全社員一丸となって事業の発展を目指し、今後も循環型社会の定着に邁進することをお約束いたします。



スズトクホールディングス株式会社  
グループCEO(最高経営責任者)

鈴木 孝雄

スズトクホールディングス株式会社  
グループCOO(最高執行責任者)  
中田屋株式会社代表取締役社長

伊藤 清



# スズトクグループが目指す「共生」

スズトクグループは、社会の公器として、すべてのステークホルダーの皆様との共生を念頭に置きながら総合リサイクル業を推進していきます。

## お客様へ

お客様のニーズに質の高いサービス・品質でお応えし、常にお客様満足度の向上を目指します。

## 地球環境へ

人類が地球と共生できる社会(循環型社会)形成に寄与するために総合リサイクル業の発展に努めます。

## 取引先の皆様へ

お互いの個性や持ち味を尊重し、緊張感を保ちながら共存共栄を目指します。

## スズトクグループ

SUZUTOKU GROUP

## 社員の皆様へ

一人ひとりの生活を守り、個性を尊重し、各人の成長とキャリア形成を支援します。

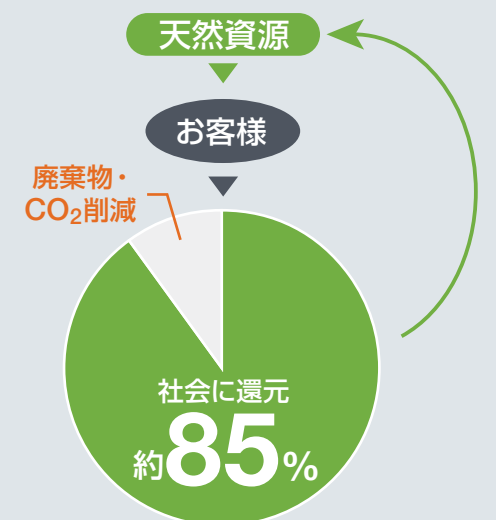
## 地域・社会の皆様へ

地域の一員として「無公害企業」で在り続けるとともに、地域の社会貢献活動に参加します。

## 行政の皆様へ

コンプライアンス体制を充実させ、リサイクル技術・知識の専門集団として、循環型社会形成の政策実現に協力します。

この約束を忘れずに  
私たちは総合リサイクル業を  
推進します。



## これがスズトクグループの仕事

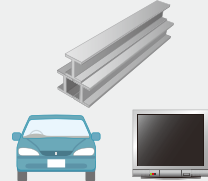
スズトクグループは、下の図のように社会において使用済みとなった鋼材類や自動車など様々な物品を受け入れ、解体・分別・中間処分・選別などの処理を行い、資源として再生します。再生した資源は、製造業で原材料として使われます。

## 事業フローの概要

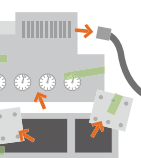
グループの総合リサイクル業の流れと主要設備は右の通りです。充実した設備によって、社会に資源を還元しています。

イラストはイメージです

### 使用済み資源



廃鋼材等、  
廃自動車、廃家電



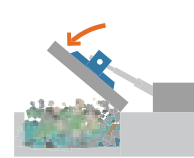
解体



分別

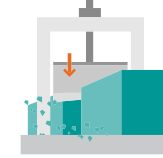


フロン回収



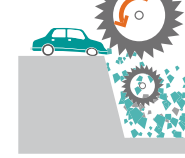
圧縮加工

圧縮機: 8拠点8基



切断加工

切断機: 14拠点15基

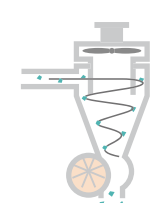


破碎加工

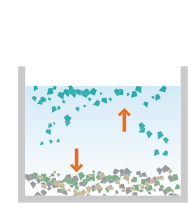
破碎機: 9拠点9基



磁気選別



風力選別



比重選別

再生資源



# 「まず、お客様ありき」

お客様に安心してお取引いただくために、全社員を対象にグループ間でサービス向上研修と意識改革を行っています。

スストグループ 環境社会報告書2010

T O P I C S

中田屋・富士非鉄工場の研修

## お客様第一の意識を共有 中田屋(株)富士非鉄工場

サービス向上研修は、全社員を対象として数名ずつ当事業所に集まり、接客の仕方など、お客様への質の高い対応方法を学ぶ研修を行いました。当事業所は独自の「3S活動」を取り入れています。これは、①スピード(素早い

荷降ろしなど、お客様の時間を極力使わない)、②スマート(場内管理など美しく紳士的に振る舞う)、③スイート(気持ちに余裕を持って業務に当たる)一を心がけるといいます。

数日間の業務体験を通して3Sの考え方を共有化し、グループ全体のサービス向上を図っています。

## 顧客満足のヒント満載

フェニックスメタル(株)市原事業所  
長尾 直樹

「いらっしゃいませ!」研修先の富士非鉄工場では、お客様が到着されると社員がすぐさま駆け寄り、笑顔で荷降ろしを手伝う姿に感銘を受けました。「まず、お客様ありき」。お客様へのサービス提供という仕事の姿勢が徹底されていて、仕事のやり方を考えるヒントが見えました。

## 安定操業のノウハウ共有へ NNY(株)那須事業所

NNY(株)でもグループ横断的な研修を開始しました。テーマは、安定操業を確保するための設備の整備とそれを操作する従業員への教育について。安全で安定した業務の進め方を具体的に見聞し、お客様に満足いただける体制の維持・改善に役立てていきます。

## グループ全社員参加で 「規律」を確認

一人ひとりが、お客様との約束を始めとする諸ルールを守り、お客様から期待されていることを常に意識して誠実に対応することを心がけています。

ルールを守ることについて全社員が各事業所で議論を重ね、意見を集めました。意見は『いつも心に』という冊子にまとめ、全員に配布して共有化し日々の業務に活かしています。今後も、社員一人ひとりが「まず、お客様ありき」を実践するグループで在り続けます。



●NNY那須事業所の研修



●ルールの冊子を持つ社員

# 地球温暖化を防ぐ

地球温暖化の防止にグループ一丸で取り組んでいます。本業の資源リサイクル事業の推進による温暖化防止とともに、事業の省エネ化も推進します。

スストグループ 環境社会報告書2010

T O P I C S

鈴徳・省エネ部会

## グループの事業と温暖化問題

再生資源の利用は、天然資源の枯渇を防ぐだけではありません。天然資源の採掘に比べ、CO<sub>2</sub>の排出量を大幅に減らすことができます。「温暖化防止に向けて私たちには何ができるのか?」。私たちは常に自問しながら、資源リサイクル事業の安定操業と発展に努めています。

事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減

においても、様々な取り組みを実施しています。毎年の夏場、日中の電力のピーク需要を抑えるために、大規模な事業所では一定の時間帯で設備操業を運休し、また、設備の入替え時には省エネ機器を積極的に導入しました。

設備の稼働効率を上げるための勉強会や意見交換会を定期的開催し、社員一人ひとりの意識を更に啓発しています。

## 温暖化防止と事業発展の両立へ

(株)鈴徳 浦和営業所 今井 義憲

作業部会では、電力使用量の約8割を占めるギロチンシャー(切断機)の稼働効率を上げるアイデアを出し合っています。実効性を確保するには、全員参加でデータを把握して意識を高めることがポイントですね。省エネは社会的責任であり、経営にも役立つよう、今後も活動を持続させます。

本年は、(株)新生で保有する全てのトラックにデジタルタコグラフを導入し、省燃費の運搬を実践しています。

## 温暖化防止への更なる挑戦へ

CO<sub>2</sub>削減対策は、これまでは事業所ごとの活動にとどまっていたが、グループ横断的な活動も始めました。昨年は、エネルギー使用量をリアルタイムで集計するシステムを構築して「見える化」を進め、グループ全体で効率的なCO<sub>2</sub>削減の取り組みができる体制を作りました。

本年はグループ内に温暖化防止に向けた作業部会を立ち上げています。改正省エネ法の特定期間となる(株)鈴徳では、設備の稼働効率向上を目標に、毎日のエネルギーデータを集計・分析し、コストや利益率分析と併せてバランスの取れた設備操業の在り方を探り、業務改善につなげています。



●新生:デジタルタコメーター



●鈴徳:エネルギー効率の見える化



●フェニックスメタル:フロン回収



# 新事業と 操業安定化へ

総合リサイクル業の発展には新規事業や安定操業に向けた取り組みが不可欠——。そのために施設の維持管理や、グループ全社共通のシステム整備に努めています。



スズクグループ 環境社会報告書2010

T O P I C S

3

新生：基板リサイクル

## 基板リサイクル事業に着手 (株)新生

これまでのグループの家電製品リサイクル事業では、分別した基板をそのまま売却していました。この度、(株)新生は付加価値を高めることを目的として、グループ各社からそれらの基板を収集して原材料化する事業を立ち上げました。

収集した基板を破碎、分別し、不純物を除いて純度を高め、レアメタル原料として提供する体制を作っています。

## シュレッダーを更新

### NNY(株)那須事業所

2010年2月に旧式のシュレッダー(破碎機)を新型機に入替え、今まで以上に安定した操業でお客様のご要望にお応えしています。

新設備では、これまでより大きな廃棄物の破碎ができるようになりました。また、破碎後の大きさも非鉄金属類を回収するのに最適なものに調整でき、回収効率が更に向上しました。

## システム化で後方支援

### スズクホールディングス(株) システム室 甲谷 匡嗣

各事業所で個別管理している記録を共有化し、故障の予防情報に役立てたい。この想いから「現場管理システム」を開発しました。開発にあたっては写真や見積書などの入力方法、誰もが使いやすい検索性に注力しました。これからも全事業所の視点に立って「見える化」の支援をしていきたいですね。



●NNY:新しいシュレッダー本体の搬入

## 事後保全から予防保全へ

### スズクホールディングス(株)

従来、シュレッダーやギロチンなどの設備の修繕履歴や点検記録は各事業所で管理していました。

これら記録を予防保全に役立てるため、システム室ではグループで横断的に一元管理できる「現場管理システム」を1年かけて開発。故障の予防や迅速かつ的確なメンテナンスが可能となりました。

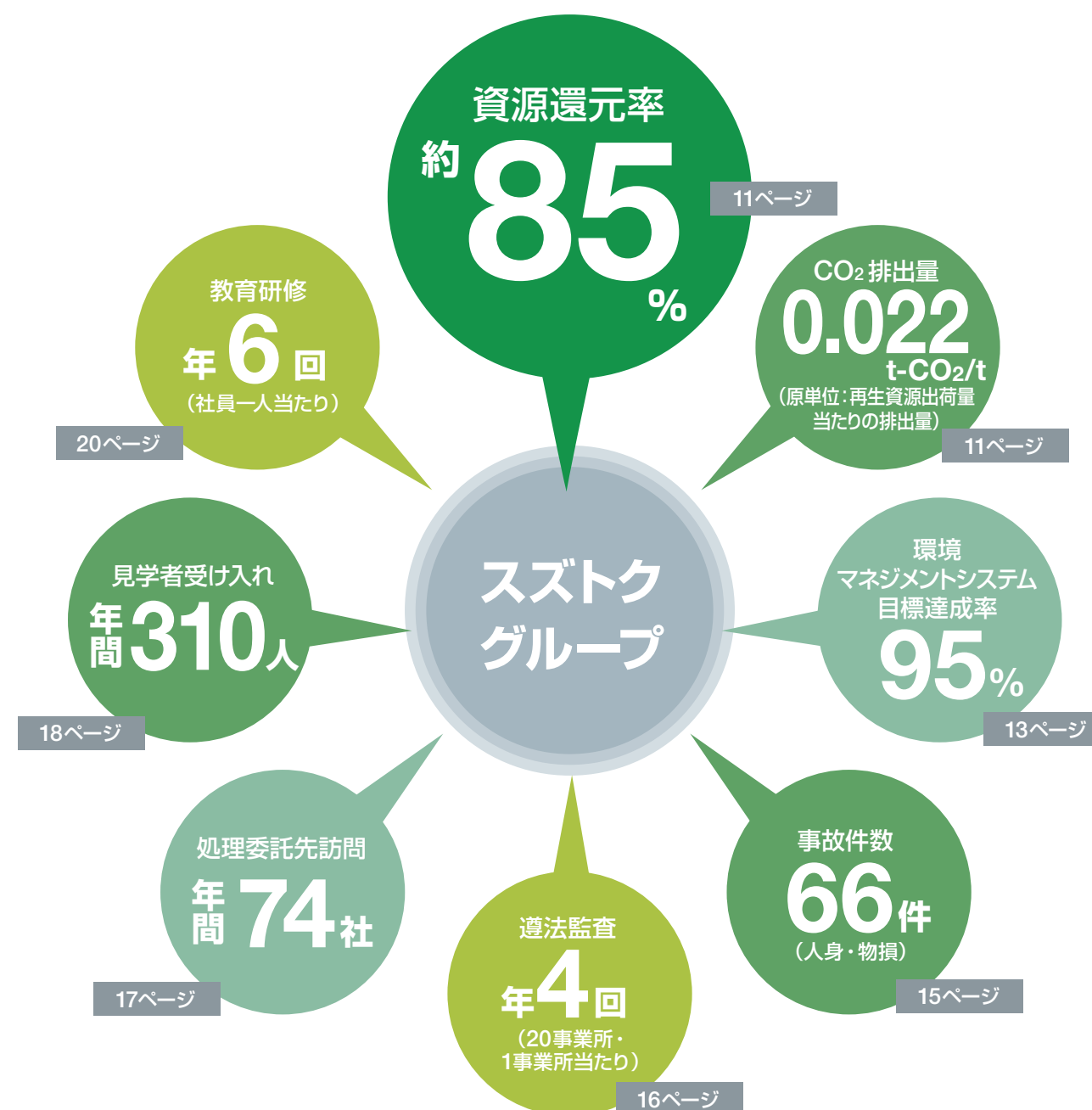


●現場管理システムを試験運用



# 数字で見る 環境・社会報告 「共生」を目指すグループの実績

スズクグループは、すべてのステークホルダーの皆様との「共生」を図りながら総合リサイクル事業を推進しています。また、「共生」をキーコンセプトに、安全やコンプライアンス、環境、地域・社会への貢献活動なども幅広く展開中です。「共生」活動の成果の一部を数字で表してみました。これからも、不断の努力を重ねて、活動の向上に努めていきます。





# 環境経営による資源リサイクルの推進



グループは、使用済み資源を受け入れて中間処理し、再生資源として社会に還流(リサイクル)させることを主たる業務としています。また、業務を行う上で出来る限り環境負荷(エネルギーや用水の使用量、CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物の排出量等)を下げるように心がけています。

## 1 資源リサイクル及び環境負荷の全体像

### 受け入れ資源量(1,037,600 t)

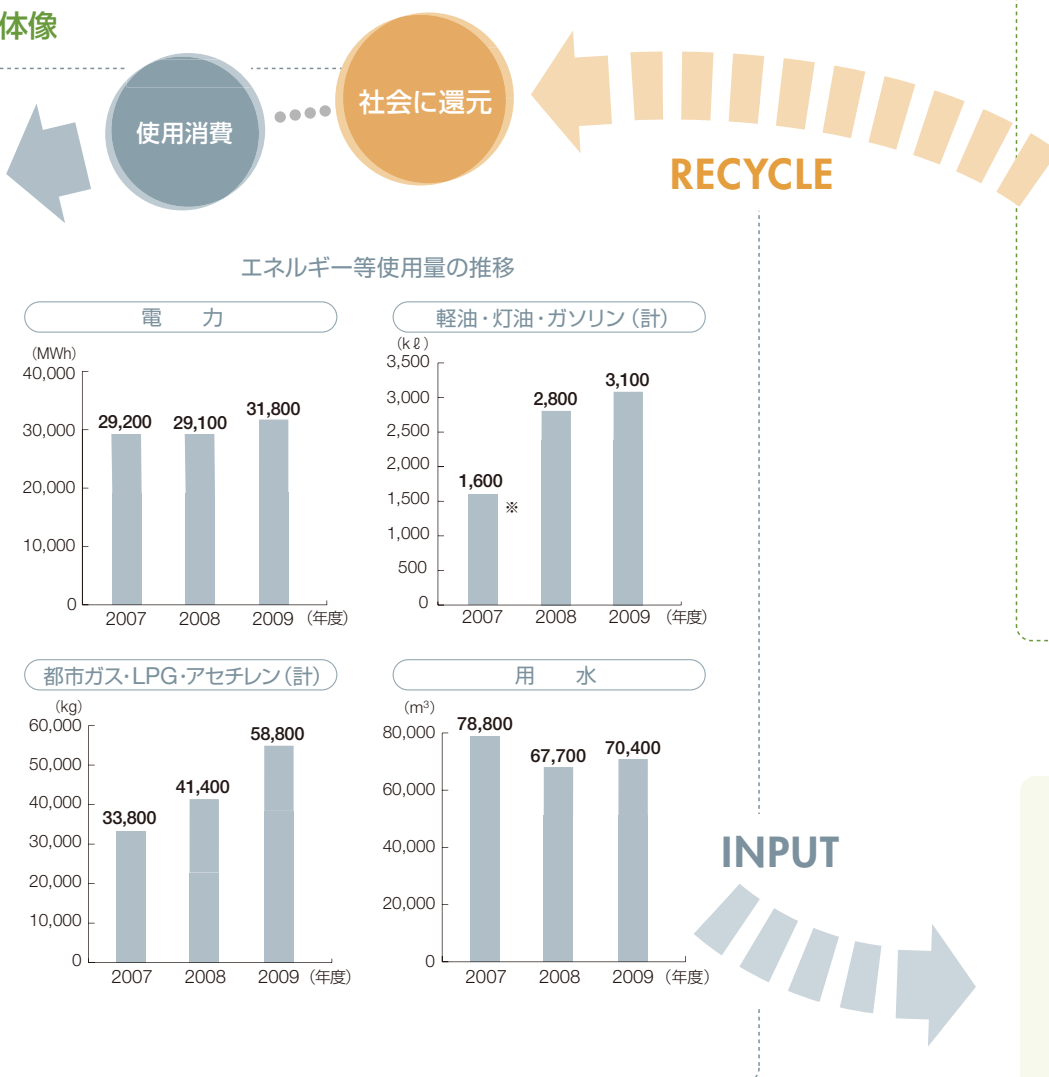
- 金属スクラップ 733,600 t
- 産業廃棄物 54,600 t
- 廃自動車 191,700 t
- 廃自販機 8,800 t
- 廃家電 48,200 t
- 古紙 700 t

### 事業所のエネルギー等使用量

- 電力 31,800 MWh
- 軽油・灯油・ガソリン 3,100 kℓ
- 都市ガス・LPG・アセチレン 58,800 kg
- 用水 70,400 m<sup>3</sup>

#### ■データ算出範囲の変更について

※ 2007年度の軽油量には物流使用分を算定していません。2008年度より算定範囲に含め、CO<sub>2</sub>排出量もこれに伴って増加しています。



## 社会に還元

再生資源として約85%を社会に還元しています。

約85%

### 再生資源量(848,200 t)

- 回収鉄 792,000 t
- 回収非鉄金属 45,000 t
- 製紙原料 900 t
- その他再資源化物 10,300 t

### 発生廃棄量(149,660 t)

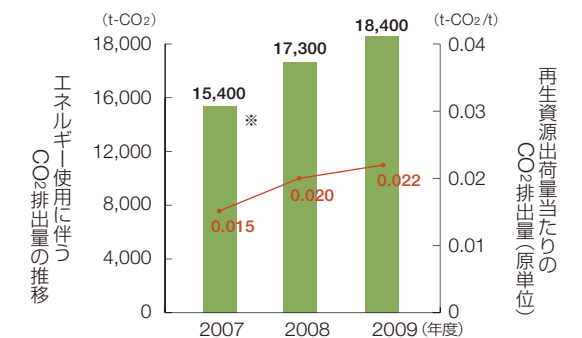
- 焼却 92,500 t
- 埋立 57,000 t
- 破壊(フロン類) 160 t

CO<sub>2</sub>排出量

0.022t-CO<sub>2</sub>/t

### CO<sub>2</sub>排出量

- エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量 18,400 t-CO<sub>2</sub>



※ 2007年度のCO<sub>2</sub>排出量には、物流使用分軽油量を含めていません。

### 改正省エネ法への対応

- 特定事業者への指定

| 特定事業者     | エネルギー使用量(2009年度・原油換算) |
|-----------|-----------------------|
| 鈴徳        | 1,938 kℓ              |
| 中田屋       | 2,963 kℓ              |
| フェニックスメタル | 2,262 kℓ              |

- 荷主としての委託物流量(トンキロ数) 6,600 万トンキロ
- グループのうち、2010年4月施行の改正省エネ法の特定事業者に該当するのは上記3社です。改正法に基づき、省エネ対策を実施中です。なお、特定荷主に該当する事業会社はありませんでした。

## スズコグループ



●シュレッダーによる破碎加工



●ギロチンシャーによる切断加工



●プレス機による圧縮加工



●使用済み自動車の再資源化



●廃家電製品の再資源化



●フロン類の回収

## 2 2009年度の環境投資

2009年度の環境関連投資は右表のとおりです。公害防止への投資では防音壁、集塵機の設置、また、環境保全への投資としてフロン回収設備やデジタコ導入を行いました。資源循環への投資では、リサイクル事業の安定と拡大を目指し、処理施設の更新のほか基板分別施設の設置を実施しています。本年度は約15億円の投資額を計上し、今後も環境保全への投資を積極的に継続していきます。

### 2009年度環境投資

| 区分   | 金額    | 主な投資内容                                |
|------|-------|---------------------------------------|
| 公害防止 | 119   | 防音壁、集塵機<br>雨水調整槽                      |
| 環境保全 | 205   | 冷蔵庫フロン回収設備<br>デジタコ導入<br>植栽、屋上緑化       |
| 資源循環 | 1,217 | 基板分別施設<br>シュレッダー更新<br>ギロチン更新<br>分別ライン |
| 合計   | 1,541 |                                       |

単位:百万円



# 環境マネジメントシステムの活動

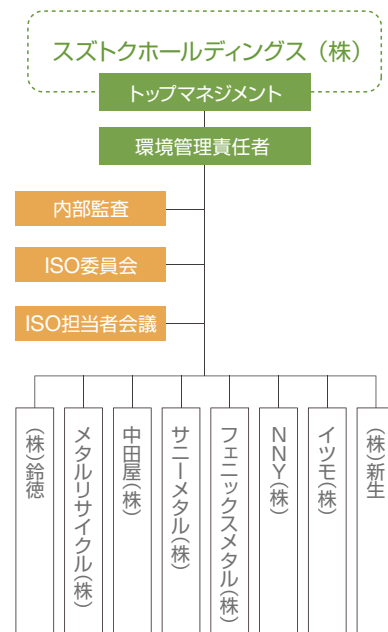


ISO14001に基づくPDCAサイクルにより、環境保全活動をスパイラルアップしています。本年度は、リサイクル事業の拡大やエネルギー効率の向上など、より実務に直結した目標を設定し活動しました。

## 1 環境マネジメントシステムの概要

グループは、ISO14001に適合する環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。2009年にグループ内4社で個別に運用していたEMSを一つに統合し、適用範囲を全事業所に拡大しました。

当グループのEMSの特徴は、本業そのものが循環型社会形成に向けた環境活動であること。そこで、環境方針では、リサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することを基本理念に位置づけた上で、①資源回収の充実とリサイクルの高度化、②地域社会への貢献、③省資源・省エネルギー・廃棄物の削減、④安定した資源リサイクルとし、本業におけるEMSの活用を行っています。



## 2 目標達成に向けた取り組み

2009年度は、グループ全23事業所のうち、18事業所が資源回収の充実に関する目標を設定して活動しました。(株)鈴徳 川崎営業所は、資源回収の充実に向けた営業促進を目標に据えて、営業活動を計画的に展開し、接客対応を徹底しました。

また、本年度の各社目標は、昨年度と比べて法令遵守・汚染予防に関するものが多いのが特徴です。中田屋(株) 加須工場や伊勢崎工場では、住民からの騒音・振動などのクレームゼロを目標に活動に取り組みました。(株)鈴徳 藤沢営業所では、品質面の目標として、納品したスクラップの返品をゼロにする活動を展開しています。

## 3 継続的改善

マネジメントレビューでは、業務に直結した目標設定や内部監査等を通じたEMSの定着などの指示が出されました。それら指示に基づき目標設定を行い、また、内部監査では全23事業所および委員会を対象に、EMSの有効性や活動状況等のチェックを行いました。良好点20(24)、助言35(28)、指摘事項15(78)等となり、EMSへの定着が見られています(括弧内は前回件数)。



●内部監査(鈴徳 児玉営業所)

## 4 グループの目標設定と実績(2009年度)

| 環境方針           | 省エネ・省資源・廃棄物削減          | 資源回収の充実とリサイクルの高度化      | 安定した資源リサイクル(危機管理)     | 法令順守・汚染の予防             | 地域社会への貢献               | 継続的改善                      |
|----------------|------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|----------------------------|
| 個々の事業所で掲げた主な目標 | 燃費<br>前年比1%向上          | 営業促進手段<br>100%実施       | 苦情・トラブル<br>ゼロ         | 騒音・振動<br>クレームゼロ        | 工場周辺の道路清掃<br>1回/月以上の実施 | 業務・環境の改善提案<br>1人1件/年       |
|                | 電力使用効率<br>前年対比3%向上     | 新規顧客獲得<br>5件/月         | 設備機器の<br>突然停止ゼロ       | 粉塵低減                   | 地域社会への貢献<br>活動参加4回/年以上 | 個人活動目標:<br>1人1件/年          |
|                | 事務所内使用用紙の<br>廃棄ゼロ      | 受入量<br>前年度比3%増加        | 火気不始末ゼロ               | 油漏れゼロ                  | 利害関係者へ情報提供<br>1回/3カ月   | 問題点・改善点検討ミー<br>ティング 2回/月実施 |
|                | 廃棄物削減<br>リサイクル率76%     | 売上増加<br>前年度比3%増加       | 事故ゼロ                  | 汚水外部流出<br>未然防止の環境整備    | 空気清浄機の寄付<br>5台/年以上     |                            |
|                | グリーン購入<br>事務用品の50%     | 廃棄物からの<br>再資源化率向上      | 返品ゼロ                  | 排水管理<br>自主基準値遵守        | 市民、学校の見学受入<br>1件/年以上   |                            |
|                | 上記を含め<br>目標設定件数<br>12件 | 上記を含め<br>目標設定件数<br>18件 | 上記を含め<br>目標設定件数<br>8件 | 上記を含め<br>目標設定件数<br>27件 | 上記を含め<br>目標設定件数<br>19件 | 上記を含め<br>目標設定件数<br>16件     |

### 目標達成率

95%

事業所全体で100件の目標を設定し、うち目標達成件数は95件でした。

| 総合評価  | 目標の達成状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |               |              |               |               |               |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
|       | 目標達成件数<br>10件                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 目標達成件数<br>15件 | 目標達成件数<br>8件 | 目標達成件数<br>27件 | 目標達成件数<br>19件 | 目標達成件数<br>16件 |
|       | 特記事項                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |               |              |               |               |               |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務に直結した目標としてリサイクルの拡大とエネルギー効率の向上を取り上げ、その際、数値よりも実施項目の確実な実行を目標としました。</li> <li>・また、法令順守と汚染の予防及び地域社会への貢献を重視し、これらについては目標件数が大幅に増加しました(35件→46件)</li> <li>・継続的改善は、具体的な目標に移行した結果、目標設定件数が減少しました。</li> <li>・目標達成率は昨年の90%に比べ95%に向上しました。しかしながら、市場等の影響で営業目標の達成困難になったものが3件のほか、省エネでも未達が2件ありました。</li> </ul> |               |              |               |               |               |
| 今後の活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・10年度の目標設定にあたり、活動が成果に結び付くよう達成手段をさらに明確に具体的にします。</li> <li>また、文書管理ソフトを充実させ、より確実な運用を目指します。</li> </ul>                                                                                                                                                                                          |               |              |               |               |               |



## 経営に役立つISOを全員参加で

(株)鈴徳 船橋営業所 和田 実

鉄スクラップ受入れ量の増大や職場環境の改善など、「紙・ゴミ・電気」にとらわれない環境目標を掲げて取り組んでいます。私たちの活動の特徴は、一言で言えば「全員参加」。定期会議では社員全員で、様々な課題と解決策を出し合ったことで、環境面だけでなく、経営面や安全面での改善が進みました。今後も、全員参加の活動を心がけ、経営に役立つISOを目指していきます。





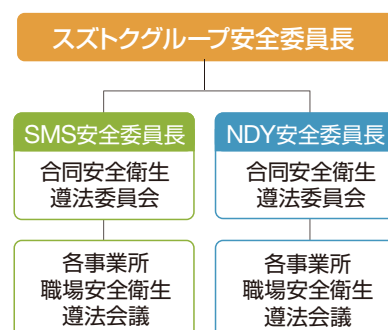
# 労働安全衛生の推進



何よりも安全を最優先し、これからも揺るぎない安全管理を進めていきます。グループ内外での労働災害情報を収集し、全ての社員にその情報を共有・理解させています。また、社員からの改善提案も積極的に吸い上げ、具体的な安全活動につなげています。

## 1 安全に向けた方針

扱うものが日々変わるリサイクル事業には非定常作業が多く、労働安全衛生面の様々なリスクがあります。グループでは、事業活動に付随するこれら特性を忘れることなく、安全意識の向上と安全ルールの順守、安全インフラの整備などに努めて、労働災害の根絶を目指しています。



## 2 労働安全衛生体制

労働安全衛生体制は、スズクグループ安全委員長の下で2グループに分かれ、それぞれの合同安全衛生遵法委員会を四半期ごとに開催し、安全管理の向上などについて幅広い討議を行っています。各事業所では、定期的に職場安全衛生遵法会議を開催し、合同会議での議事内容を周知し、事業所固有の課題を話し合います。その議事録を次の合同会議に提示し、情報を共有しています。



●SMSグループ合同安全衛生遵法委員会



●NDYグループ合同安全衛生遵法委員会

## 3 2009年度の活動

年間計画の下で労働安全衛生活動を行っています。2009年度も人身災害の削減に重点をおきました。KY(危険予知)活動にも力を入れ、過去5年間に発生した事故を素材に研修シートを作成し、実践的なイメージトレーニングを全事業所で実施しています。

また、お客様へのヘルメット配布徹底、相互の身だしなみチェック、事業所内の2S維持(整理・整頓の徹底)などを本年も続けました。



●安全パトロール(SMSグループ)



●安全の巡視活動(NDYグループ)

## 4 人身事故無災害記録の更新に挑戦中

各事業所では人身事故を中心とする災害を根絶させる努力を続けています。

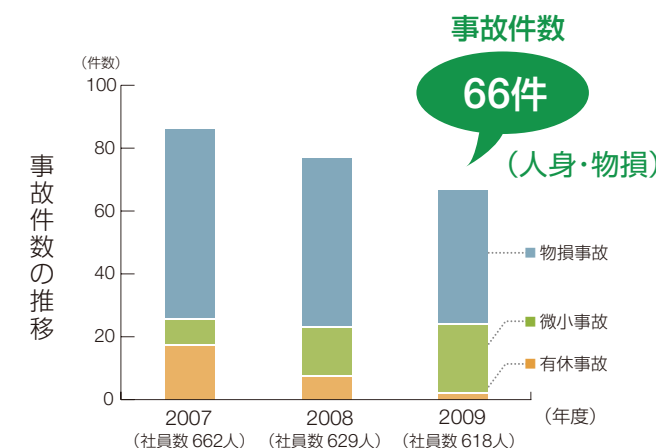
中田屋(株)伊勢崎工場では、2010年10月中旬の無災害記録2000日突破を目指しています。職場安全衛生遵法会議では、全社員が自発的に安全確保に関する意見を述べ合い、危険性のある場所や作業の情報を共有して改善に努めています。また、経験豊富な社員たちが中心となり、お互いに声を掛け合いながら絶えず危険がないかを注意しています。



●災害防止活動(中田屋 伊勢崎工場)

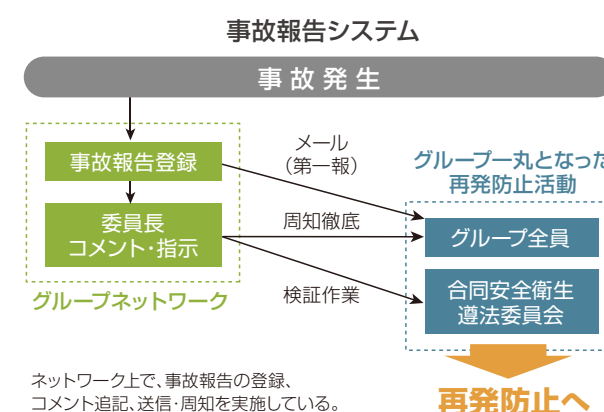
## 5 事故数の推移

本年の事故総数は66件であり、前年に比べて10件減少しました。死亡事故ゼロも維持しています。人身事故数は24件と前年よりも増加しましたが、休業を伴う人身事故は3件減少しました。人身を伴わない物損事故は13件減少しています。



## 6 事故情報の共有化による再発防止

事故が発生した場合、ネットワーク上に事故報告が登録され、事業所長などがコメントを追記すると、全社員にその内容がメール配信されるシステムが整備されています。合同安全衛生遵法委員会ではすべての報告事項を検証し、再発防止を徹底しています。



ネットワーク上で、事故報告の登録、コメント追記、送信・周知を実施している。

安全管理に  
秘策はない

VOICE

### 中田屋(株)伊勢崎工場 廣井 郁夫

本年7月初旬に無災害1900日を突破し、今では社員一丸となって2000日突破の記録を目指しています。「一に安全、二に遵法、三に儲け」というグループ理念のもと、日々の現場業務ではいつも声を掛け合って安全意識を持ち続けています。ただ、緊張感を一日中持ち続けることは難しく、休憩時間など作業の合間には気分を和らげる話をするのも大切です。



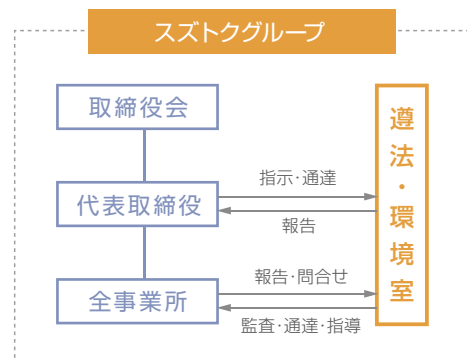
# コンプライアンスの徹底



排出事業者責任が強化される中、排出事業者のお客様に安心してお取引いただくために、グループは法令等の順守を最優先事項の一つと位置づけて、業務を行っています。事業所の遵法監査と環境法教育を繰り返し徹底し、処理委託先の審査も強化しています。

## 1 コンプライアンス体制

グループ内では、コンプライアンスの確保を主目的としてスズキホールディングス(株)に「遵法・環境室」を設置しています。遵法・環境室はグループ全体の遵法体制を強固にするために、事業所からの問合せ対応と定期的な遵法監査実施によって、日常業務の適法性を確保しています。また、各事業所がもつ許可証や契約書などの膨大な情報をITシステムで一元管理すること、廃棄物処理法など法規制を全社員に教育することも担当しています。



## 2 コンプライアンスの実践

事業所に廃棄物等が搬入される際は、目視によって現物とマニフェスト伝票との整合性を確認しています。伝票情報は自社開発の「マニフェスト管理システム」に入力し、受入れから最終処分までの一連のプロセスで管理が可能となっています。

本年には、定期的な遵法監査に加えて、全事業所への臨時立入検査も複数回実施し、コンプライアンスの徹底を図りました。また、社外の収集運搬業者や排出事業者の皆様を対象とし、廃棄物処理法を分かりやすく解説する研修も行いました。さらに、遵法に関する社内外のトラブル事例を全社員に周知し、注意を喚起する取り組みも進めています。



●マニフェスト管理(サニーメタル)



●検収風景(中田屋 相模原工場)



●マリソルネットワーク会議



●取引先へのコンプライアンス研修

### 本年度の活動

#### 遵法監査

年4回  
/事業所

#### ●定期監査

20事業所にて実施。フォローアップ監査を含む

#### ●臨時立入調査

20事業所に対して事業所ごとに計2回実施

#### ●コンプライアンス研修

社内教育とは別に、取引先に対しても実施し、知識の共有化を図る(マリソルネットワーク会議での研修や収集運搬業者の皆様向けの研修など)

#### ●トラブルの未然防止

全社員へのメール配信による自社および他社のトラブル事例の周知

#### ●委託先の訪問審査

処理委託先74社を訪問審査

※マリソルネットワーク：中田屋が窓口となる全国150社を超える業務委託企業のネットワーク

## 3 監査の実施

遵法監査は、廃棄物処理・管理の実態について自主的に内部監査です。本年も20事業所を対象に、文書や記録の管理状況、廃棄物の保管や処理の実態、主要設備の維持管理などをチェックしました。監査にあたっては、廃棄物処理法を中心とした環境法やグループ内規などを踏まえたチェックリストを作成し、このリストは法改正の有無に関わらず、毎年改訂します。遵法監査の数カ月後にはフォローアップ監査を行い、指摘したリスクの改善状況を確認しています。

## 4 監査の結果

監査で把握した問題点は、リスクの重大性に応じて3段階に分類し、改善を促します。

本年の指摘項目総数は全事業所で313件でした。フォローアップ監査では約9割が是正され、その後の臨時監査で全項目の是正が完了したことを確認できました。

### VOICE

#### 遵法監査で業務に安心感

産業廃棄物の契約書やマニフェストの管理を担当しています。遵法監査はいつも緊張しますが、日々の業務の適法性などを再確認できる貴重な機会。最近、排出事業者のお客からマニフェストの管理状況などのお問い合わせが増えましたが、遵法監査のおかげで自信を持って対応できています。残念ながら今年の審査では軽微な指摘が出てしまいましたが、来年は指摘ゼロを目指します。

メタルリサイクル(株)  
本社工場  
小久保 里香

### 処理委託先訪問

74社

## 5 委託先の訪問審査

お客様に安心してお取引いただくために、グループでは排出事業者として自主的に処理委託先の訪問審査を実施しています。本年には74社を訪問しました。また、新規に処理委託先が提案された場合は、訪問調査で委託の可否を判定しています。本年の新規委託先は18社で、訪問審査の結果、12社と委託業務を開始しました。



●委託先審査ヤード視察



●遵法監査(鈴徳 東京営業所)



●遵法監査(中田屋 千葉工場)

### 法規制 コラム

#### 排出事業者責任強化などで 廃棄物処理法が改正

排出事業者の処理責任の徹底と産業廃棄物の排出抑制を強化する改正廃棄物処理法が平成22年5月19日に公布され、今後1年以内に施行されます。改正点は以下のようなものです。

- ①事業所外での廃棄物保管に事前届出制度を創設
- ②処理委託先の状況確認を努力義務化
- ③マニフェストの交付を受けない廃棄物の引き受けを禁止
- ④不法投棄の罰則強化：最高1億円以下を3億円以下に引き上げ
- ⑤多量排出事業者の減量等計画作成提出義務違反に罰則を規定



# 地域・社会との共生



地域に密着して事業を行うグループは、地域・社会との「共生」を大切にしています。小中学校の環境教育や地域の環境美化・福祉活動、生物多様性の保全への協力など、グループ9社全てが地域のニーズを踏まえた社会活動で貢献しています。

## 1 工場での環境教育



●工場現場での環境教育(メタルリサイクル)



●リサイクル事業の説明を受ける小学生(メタルリサイクル)

見学者数

小中学生や大学生、地域や行政機関等の皆様にリサイクル事業の社会的な意義をご理解いただくために、工場見学のご要請に積極的に対応し、情報開示に努めています。

本年の見学者数は310名となりました。

メタルリサイクル(株)本社工場では、本年は約60名の小学生の見学者を受け入れ、使用済み自動車の解体の流れを現場説明し、資源リサイクルの大切さについて理解を深めてもらいました。

## VOICE

### リサイクルを肌で実感してもらいたい

メタルリサイクル(株)本社工場  
清水 清直

児童の皆さんから「車はどのようにリサイクルされるんですか」など、質問がたくさん寄せられました。現場を直接見て、リサイクルの大切さを感じてもらえればうれしいですね。今後も、積極的に環境学習の場を提供していきたいと思います。



## 2 大学生へリサイクル事業を講義

2010年1月に上智大学にて環境法などを学ぶ学生の皆様に、環境ビジネスとリサイクル事業の意義について講義を行い、知識と実態のギャップを感じていただきました。



●大学での講義

## 3 生物多様性の保全



●相模原の環境をよくする会への参加  
(中田屋 相模原工場)



●子ども夏休み体験

中田屋(株)相模原工場は、生物多様性の保全に向けた取り組みも行っています。市内約150社が参加する「相模原の環境をよくする会」に参加し、ほぼ毎月行われる地域の環境保全活動に協力しています。

本年は、野鳥観察や天体観察などのほかに、行政や地域の幼稚園と協力して在来種の稚魚を放流する活動も実施しました。



●在来種の放流

## 4 災害救助犬やセラピードッグ育成に協力

グループは、災害救助犬やセラピードッグ(触れ合いを通じて心と体を癒す訓練を受けた犬)の育成・派遣など、NPO法人日本レスキュー協会が取り組む事業に毎年寄付を行っています。寄付活動は本年度で3年目を迎えました。



●セラピードッグ

## 5 地域の環境美化に貢献

地域や行政と連携し、地域の環境保全や美化活動に取り組んでいます。

サニーメタル(株)大阪事業所は、地域の工業会と協力しながら、周囲の通路にプランターを設置しています。本年には給水管を取り付けることで約50のプランターへの水やりが可能となり、通路にはいつも花が咲くようになりました。通路を毎日清掃し、路上駐車や不法投棄防止のための巡回にも協力しています。

その他の事業所では、周辺の道路や河川、植え込みの清掃活動なども行っています。



●プランター設置(サニーメタル)



●事業所周辺の清掃(鈴徳 東京営業所)

## 6 レジ袋削減プロジェクトに協力

(株)新生は、滑川町が推進するレジ袋削減プロジェクトによる減量化施策に賛同し、寄付金を提供しました。



●レジ袋削減プロジェクトに協力(新生)



# 多様な人材の活用



社員の雇用を守り、活力のある働きやすい職場づくりを目指すとともに、社員一人ひとりの個性と能力を尊重し、社員の安全・遵法・環境への意識を高めることにも努めています。また、グループ事業の多様性を活かした会社間の技術研修も実施しています。

6回/年・人

## 1 多様な人材の活用

社員の一人ひとりに意識改革とスキルアップの機会を提供し、総合リサイクル業を推進する原動力として力を発揮してもらうことを重視しています。また、グループは、取扱い品目や設備、人材、地域など多くの面で特徴のある事業会社で構成されています。そこで、各社の持つ技術や業務上のノウハウを修得して自社の事業に活かす取り組みも行っています。

本年の種々の教育研修の回数は、社員一人当たりで年間6回となりました。

## 教育研修の受講回数



●KYシート教材

## 2 安全教育

各事業所での職場安全衛生遵法会議では、4ラウンド法を活用し、実際に発生した様々な事故を素材に安全についての感性を上げるヒヤリハット活動を展開しています。

また、安全衛生ビデオによる映像教育も実施しました。安全意識向上のため、目標や標語、安全に関する約束事を決めることに、社員が参加しています。

## 3 コンプライアンス教育

本年は、従来の集合教育を一步進めて、廃棄物処理法等に関わるグループ内全ての“担当社員”の意識・知識の向上を徹底することに注力しました。

遵法監査や立入調査の機会を活用し、遵法・環境室の教育担当が社員一人ひとりの業務における法遵守事項を確認する個別教育をきめ細かく実施しました。さらに、事業所長の集合研修も行い、遵法面でのリーダーシップ確保にも努めました。

2010年4月から施行された改正省エネ法への対応に万全を期すために、対象実務者だけでなく、関連する事業所長全員が外部講習会に参加しました。



●遵法教育

## 4 グループ会社間の研修

各社間研修を推進しています。2009年より中田屋(株)富士非鉄工場研修を開始し、非鉄金属類に関する分析機器の使用法や選別業務などを学ぶとともに受け入れ業務を通して接客業務の研修を実施しました。2010年4月からはNNY(株)那須事業所においても研修を開始し、製品に付加価値を付けるための実践的なノウハウもグループ間で共有化を図っています。



●技術研修風景

## 5 ISO教育

本年は、業務に直結した目標設定など、環境マネジメントシステム(EMS)を経営ツールとしての活用に重点を置いたISO担当者向けの集合教育を実施しました。

さらに内部監査の機会を活用して、教育事項を徹底しました。ISO委員会の委員が内部監査員となり、監査時に教育的な指導を強化するとともに、監査前後に研修の場も設けました。



●ISO教育

## 6 働きやすい職場づくり

グループは、事業各社の実情に即した働きやすい職場づくりに努めています。中田屋(株)は、子育てがしやすくなるように、子供の看護休暇制度を半日単位で利用可能にするなど法定義務を上回る制度を整備しています。また、高齢者の再雇用制度もあり、2010年6月現在、16名の社員が再雇用で働いています。



●働きやすい職場環境



## 仕事と育児の両立が可能に

中田屋(株) 平田 依子/田口 仁子

+

私たちは二人目の子どもを出産し、それぞれ最近になって職場復帰しました。当社には子育てに配慮した制度があり、勤務時間や勤務体制を変えてもらうことができます。仕事と育児が両立でき、大変助かっています。

## 愛着ある工場で働く幸せ

(株)鈴徳 船橋営業所 佐々木 不二雄

定年後も再雇用制度によって今も同じ職場で働いています。若手社員から「佐々木のおとつあん」と呼ばれてますよ。彼らには、私が愛着ある船橋営業所で培った36年間の経験をしっかり伝えていきたいですね。



VOICE



## グループ概要

for Customer

for Employee

for Society

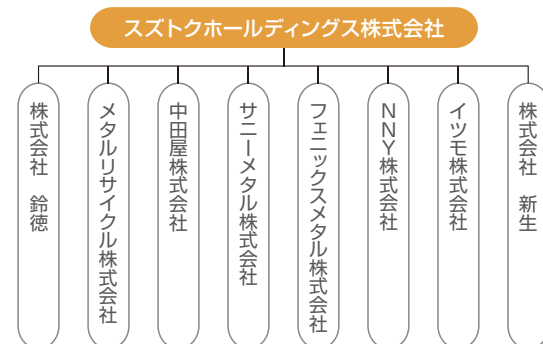
for Stockholder

「まず、お客様ありき」。関係する皆様の満足度の最大化を求め、社会の変化に対して常に適切に対応し、積極的な情報公開の下、健全な企業経営を進めます。

## ■ スズトクホールディングス(株)の概要

|      |                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社名   | スズトクホールディングス株式会社<br>(SUZUTOKU Holdings Co., Ltd.)                                                             |
| 設立   | 2007年7月2日                                                                                                     |
| 所在地  | 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19                                                                                       |
| 代表者  | 代表取締役社長 鈴木 孝雄                                                                                                 |
| 資本金  | 100百万円                                                                                                        |
| 事業内容 | グループの事業統括<br>●経営統括・戦略立案<br>●ITシステム開発・管理<br>●コンプライアンス・環境・ISO・安全衛生関連業務<br>●管理部門サポート                             |
| 連絡先  | 〒101-0054<br>東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル<br>TEL:03-3293-6302<br>FAX:03-3295-7169<br>E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp |

## ■ グループ組織図



## ■ 主な財務関連データ

|                    |         |
|--------------------|---------|
| 売上高 <sup>※1</sup>  | 372.4億円 |
| 経常利益 <sup>※1</sup> | △10.1億円 |
| 従業者数 <sup>※2</sup> | 618人    |

※1 事業年度  
・スズトクホールディングス(株):2009.7.1~2010.6.30  
・(株)鈴徳、メタルリサイクル(株):2009.3.1~2010.2.28  
・中田屋(株):2008.11.1~2009.10.31  
・サニーメタル(株)、フェニックスメタル(株)、イツモ(株):2009.4.1~2010.3.31  
・NNY(株):2008.9.1~2009.8.31  
・(株)新生:2009.5.1~2010.4.30  
(連結決算ではなく、各社単体の決算書類の数値を合算した)

※2 2010年6月1日現在の人員。経営層を含み、派遣、請負作業の従事者は除く

## ■ 事業所一覧

## スズトクホールディングス株式会社

- 本社
- 管理部、システム部、遵法・環境室

## 株式会社 鈴徳

- 本社
- 1 東京営業所
- 2 川崎営業所
- 3 藤沢営業所
- 4 船橋営業所
- 5 千葉営業所
- 6 浦和営業所
- 7 児玉営業所

## メタルリサイクル株式会社

- 1 本社工場
- 2 千葉営業所

## 株式会社 新生

- 1 本社・工場



## 中田屋株式会社

- 本社
- 1 船堀工場
- 2 加須工場
- 3 千葉工場
- 4 富士工場
- 5 富士非鉄工場
- 6 相模原工場
- 7 伊勢崎工場
- 8 袖ヶ浦 SHIPPING センター

## サニーメタル株式会社

- 1 大阪事業所
- 本社

## フェニックスメタル株式会社

- 1 市原事業所
- 本社

## NNY株式会社

- 1 那須事業所
- 本社

## イツモ株式会社

- 本社

## ■ 沿革(グループの歩み)

| 年            | 月   | 事項                                                                                     |
|--------------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1904年(明治37年) | 2月  | ▶ 鈴徳:創業者 鈴木徳五郎 浅草で屑物一般の売買を始める                                                          |
| 1935年(昭和10年) | 2月  | ▶ 鈴徳:株式会社 鈴木徳五郎商店として法人設立                                                               |
| 1951年(昭和26年) | 1月  | ▶ 中田屋:東京都荒川区に、製鋼原料、製紙原料の販売を目的として株式会社 中田屋商店を設立                                          |
| 1969年(昭和44年) | 12月 | ▶ メタルリサイクル: 関東製鉄株式会社 川越工場として設立(その後1972年、1986年に社名・組織変更、2001年3月にメタルリサイクル株式会社として当グループに参加) |
| 1970年(昭和45年) | 3月  | ▶ メタルリサイクル:日本初のシュレッダーを導入                                                               |
| 1972年(昭和47年) | 7月  | ▶ 鈴徳:社名を株式会社 鈴徳に変更                                                                     |
| 1980年(昭和55年) | 5月  | ▶ 中田屋:社名を中田屋株式会社に變更                                                                    |
| 1986年(昭和61年) | 6月  | ▶ サニーメタル株式会社設立                                                                         |
| 1987年(昭和62年) | 12月 | ▶ フェニックスメタル株式会社設立                                                                      |
| 1989年(平成元年)  | 10月 | ▶ NNY株式会社:那須中田屋株式会社として設立(2003年5月に社名変更)                                                 |
| 1993年(平成5年)  | 10月 | ▶ 株式会社 新生設立(2006年、当グループに参加)                                                            |
| 1995年(平成7年)  | 4月  | ▶ イツモ株式会社:中田屋の運送部門として別会社化(2002年2月に現社名に変更)                                              |
| 1999年(平成11年) | 6月  | ▶ 鈴徳:ISO14001認証取得(児玉営業所)                                                               |
| 2000年(平成12年) | 12月 | ▶ 中田屋:ISO14001認証取得(本社、千葉工場他)                                                           |
| 2001年(平成13年) | 4月  | ▶ 家電リサイクル業務を開始(中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY)                                               |
| 2003年(平成15年) | 6月  | ▶ メタルリサイクル:ISO14001認証取得                                                                |
|              | 12月 | ▶ 鈴徳:中田屋及び同社の関連会社をグループ化                                                                |
| 2004年(平成16年) | 2月  | ▶ 鈴徳:100周年                                                                             |
|              | 6月  | ▶ 新生:ISO14001認証取得                                                                      |
| 2005年(平成17年) | 1月  | ▶ 自動車リサイクル業務を開始(鈴徳、メタルリサイクル、中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY)                                  |
| 2007年(平成19年) | 7月  | ▶ グループの持株会社としてスズトクホールディングス株式会社を設立                                                      |
| 2008年(平成20年) | 12月 | ▶ ISO14001をスズトクグループで統合                                                                 |
| 2010年(平成22年) | 7月  | ▶ スズトクホールディングス(株):(社)日本経済団体連合会に加盟                                                      |





## グループ会社紹介

for Customer

for Employee

for Society

for Stockholder

グループ各社がそれぞれの強みを活かしながら地域特性に応じたサービスを提供するとともに、グループとしての総合力を発揮し、すべてのお客様のご要望にお応えします。

## ■ 株式会社 鈴徳

鉄を中心とした金属のリサイクルと廃棄物の処理を実施。106年の事業実績を背景に、東京及び近郊の7拠点で事業を展開。

|       |                            |
|-------|----------------------------|
| 創業    | 1904年2月                    |
| 本社所在地 | 〒130-0021<br>東京都墨田区緑1-4-19 |
| 連絡先   | Tel 03-3631-5472           |
| 資本金   | 1,000万円                    |
| 売上高   | 11,174百万円（2010年2月期）        |
| 社員数   | 107名（2010年6月1日）            |

## 取扱い品目

|         |           |
|---------|-----------|
| 金属スクラップ | 356,917 t |
| 産業廃棄物   | 10,351 t  |
| 廃自動車    | 12,377 t  |
| 廃自販機    | 360 t     |

## ■ サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西地区拠点。産業廃棄物、廃自動車、廃家電、資源ごみ等の処理を実施。地域唯一のシュレッダーを所有。分別による資源リサイクルを強化。

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 設立     | 1986年6月                     |
| 本社所在地  | 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 |
| 事業所所在地 | 〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13 |
| 連絡先    | Tel 06-6461-2818            |
| 資本金    | 10,000万円                    |
| 売上高    | 1,291百万円（2010年3月期）          |
| 社員数    | 39名（2010年6月1日）              |

## 取扱い品目

|         |          |
|---------|----------|
| 金属スクラップ | 9,706 t  |
| 産業廃棄物   | 4,042 t  |
| 廃自動車    | 11,123 t |
| 廃家電     | 5,554 t  |
| 廃自販機    | 1,231 t  |

## ■ メタルリサイクル株式会社

国内で初めてシュレッダーを導入。金属のリサイクルと廃棄物の処理に加え、廃自動車の引取りから破碎までの一貫処理に特徴。高品質の自動車中古部品類の販売にも注力。

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 設立    | 1999年11月                    |
| 本社所在地 | 〒350-0166<br>埼玉県比企郡川島町戸守440 |
| 連絡先   | Tel 049-297-2111            |
| 資本金   | 9,000万円                     |
| 売上高   | 3,873百万円（2010年2月期）          |
| 社員数   | 104名（2010年6月1日）             |

## 取扱い品目

|         |          |
|---------|----------|
| 金属スクラップ | 49,397 t |
| 産業廃棄物   | 3,628 t  |
| 廃自動車    | 54,848 t |
| 廃自販機    | 2,158 t  |

## ■ フェニックスメタル株式会社

千葉の臨海地区に位置し、鉄スクラップをはじめ、産業廃棄物、廃家電及び廃自動車等の大規模処理に特色。冷蔵庫等の断熱材フロン回収も実施。

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 設立     | 1987年12月                    |
| 本社所在地  | 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 |
| 事業所所在地 | 〒290-0067<br>千葉県市原市八幡海岸通7-3 |
| 連絡先    | Tel 0436-43-1261            |
| 資本金    | 10,000万円                    |
| 売上高    | 5,336百万円（2010年3月期）          |
| 社員数    | 40名（2010年6月1日）              |

## 取扱い品目

|         |          |
|---------|----------|
| 金属スクラップ | 54,902 t |
| 産業廃棄物   | 4,221 t  |
| 廃自動車    | 58,588 t |
| 廃家電     | 20,914 t |
| 廃自販機    | 3,057 t  |

## ■ 中田屋株式会社

関東及び静岡県に8拠点を有し、鉄や非鉄金属のリサイクル、産業廃棄物・廃自動車・廃家電・廃自販機・廃OA機器等の中間処理を幅広く実施。

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 設立    | 1951年1月                     |
| 本社所在地 | 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 |
| 連絡先   | Tel 03-3293-6781            |
| 資本金   | 10,000万円                    |
| 売上高   | 12,297百万円（2009年10月期）        |
| 社員数   | 186名（2010年6月1日）             |

## 取扱い品目

|         |           |
|---------|-----------|
| 金属スクラップ | 261,117 t |
| 産業廃棄物   | 28,378 t  |
| 廃自動車    | 54,549 t  |
| 廃家電     | 16,421 t  |
| 廃自販機    | 1,953 t   |

## ■ NNY株式会社

非鉄金属の選別回収を事業の柱とし、産業廃棄物、廃家電及び廃自動車等の処理を実施。プラスチックリサイクルも手掛ける。近隣の第二事業所と一体運営。

|        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 設立     | 1989年10月                    |
| 本社所在地  | 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 |
| 事業所所在地 | 〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11 |
| 連絡先    | Tel 0287-29-2777            |
| 資本金    | 5,000万円                     |
| 売上高    | 1,283百万円（2009年8月期）          |
| 社員数    | 30名（2010年6月1日）              |

## 取扱い品目

|         |          |
|---------|----------|
| 金属スクラップ | 1,487 t  |
| ミックスメタル | 27,270 t |
| 産業廃棄物   | 1,104 t  |
| 廃自動車    | 166 t    |
| 廃家電     | 5,265 t  |



## グループ会社代表取締役社長

左より● フェニックスメタル(株) 水口剛志／メタルリサイクル(株) 島元和生／イツモ(株) 太田義晃／(株)鈴徳 鈴木徹／スズテックホールディングス(株) 鈴木孝雄／中田屋(株) 伊藤清／NNY(株) 神保正徳／サニーメタル(株) 大島延夫／(株)新生 中田光一

## ■ イツモ株式会社

グループの物流を担当し、1都24県26市で産業廃棄物収集運搬業を営む。一般貨物自動車運送業や第一種利用運搬業の許可も保有。

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 設立    | 1961年5月                      |
| 本社所在地 | 〒263-0004<br>千葉県千葉市稲毛区六方町210 |
| 連絡先   | Tel 043-423-3415             |
| 資本金   | 5,000万円                      |
| 売上高   | 1,186百万円（2010年3月期）           |
| 社員数   | 69名（2010年6月1日）               |

## 保有輸送用車両

|          |        |
|----------|--------|
| 2トン車     | 1 台    |
| 4トン車     | 3 台    |
| 8トン車     | 10 台   |
| トラック     | 22 台   |
| セミトレーラ   | 23 台   |
| 15トンドンプ  | 19 台   |
| 15トントラック | 12 台   |
|          | (計90台) |

## ■ 株式会社 新生

関東を中心に1都8県11市で産業廃棄物収集運搬業を営む。機密文書処理とリサイクル、また基板の分別リサイクルを実施。

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 設立    | 1993年10月                     |
| 本社所在地 | 〒355-0812<br>埼玉県比企郡滑川町都25-21 |
| 連絡先   | Tel 0493-57-2170             |
| 資本金   | 3,000万円                      |
| 売上高   | 293百万円（2010年4月期）             |
| 社員数   | 21名（2010年6月1日）               |

## 取扱い品目等

|             |         |
|-------------|---------|
| 古紙          | 687 t   |
| 金属スクラップ     | 30 t    |
| 産業廃棄物       | 2,920 t |
| 産業廃棄物の収集運搬業 |         |
| 保有輸送用車両     | (計14台)  |
| 2トン車        | 3 台     |
| 4トン車        | 10 台    |
| 10トン車       | 1 台     |

各社の強みと特色を生かして  
社会の要請にお応えします



## ■ 許認可・登録の概要(取得自治体数)

(2010年6月末現在)

| 会社名                                         | 産業廃棄物             |                       |           | 一般廃棄物       |                       | 自動車リサイクル    |         |            | 優良性評価制度 |             |                       |
|---------------------------------------------|-------------------|-----------------------|-----------|-------------|-----------------------|-------------|---------|------------|---------|-------------|-----------------------|
|                                             | 中間<br>処<br>分<br>業 | 収<br>集<br>運<br>搬<br>業 | 特別管理収集運搬業 | 処<br>分<br>業 | 収<br>集<br>運<br>搬<br>業 | 引取業・フロン類回収業 | 解体業・破砕業 | 第一種フロン類回収業 | 再生事業者登録 | 処<br>分<br>業 | 収<br>集<br>運<br>搬<br>業 |
| 株式会社 鈴徳<br>http://www.suzutoku.co.jp/       | 6                 | 15                    |           | 1           | 1                     | 3           | 3       | 3          | 7       | 5           | 7                     |
| メタルリサイクル株式会社<br>http://www.metal-r.co.jp/   | 2                 | 18                    | 3         |             |                       | 2           | 2       | 2          | 1       |             |                       |
| 中田屋株式会社<br>http://www.ndy.co.jp/            | 6                 | 10                    |           |             |                       | 4           | 5       | 9          | 6       | 5           | 5                     |
| サニーメタル株式会社<br>http://www.sunny-metal.co.jp/ | 1                 | 18                    |           |             |                       |             | 1       | 1          | 1       | 1           | 16                    |
| フェニックスメタル株式会社<br>http://www.pmc.to/         | 1                 | 3                     |           | 1           |                       | 1           | 1       | 1          | 1       | 1           | 2                     |
| NNY 株式会社<br>http://www.nnycorp.co.jp/       | 1                 | 5                     |           | 1           | 2                     | 1           | 1       | 1          | 1       | 1           | 4                     |
| イツモ株式会社<br>http://www.suzutoku.co.jp/itm/   |                   | 51                    |           |             |                       |             |         |            |         |             |                       |
| 株式会社 新生<br>http://www.shinsei-env.co.jp/    | 1                 | 20                    | 10        | 1           | 1                     |             |         |            | 1       |             |                       |

➡ 詳細は各社ホームページをご覧ください。

## ■ 産廃エキスパートの認定

2009年度から東京都は、業界のトップランナーとして「優良な産業廃棄物処理業者を認定する制度」を開始しました。これは、適正処理、資源化、環境負荷の少ない取り組みを行っている優良な廃棄物処理業者を、第三者機関が認定する全国で初めての制度です。

都内の中田屋(株)船堀工場は、この制度の上位レベル「産廃エキスパート」の認定を受けました。



➡ 詳細は東京都環境局ホームページをご覧ください  
http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/

## スズクグループ「環境社会報告書 2010」への第三者意見



千葉大学法経学部教授  
倉阪 秀史 氏

千葉大学法経学部教授。専門は、環境政策論、環境経済論。環境庁において環境基本法や環境影響評価法の制定、企業の環境対策促進などを手掛けた後、大学に移り、2008年から現職。千葉大学の環境管理責任者も務める。著書に『環境政策論第二版』(信山社)など。

### ■ 総合リサイクル事業の社会的意義を自覚し「共生」を経営目標に掲げています

スズクグループの環境社会報告書については、昨年度に引き続き第三者意見を書かせていただいております。今年の環境社会報告書では、まず、総合リサイクル事業の社会的意義を自覚して、ステークホルダー(関係者)との「共生」を経営目標として打ち出しています。ステークホルダーとしては、お客様、地球環境、取引先、社員、地域・社会、行政の6者が掲げられており、それぞれへのコミットメント(約束)が冒頭に明確にされています。これは、環境社会報告書で報告された内容がスズクグループの経営の根幹部分に位置することを表明したことを意味するもので、高く評価できます。

### ■ 事故の削減と法令遵守のシステムが機能しています

廃棄物リサイクル事業の現場においては、さまざまな危険が伴います。また、廃棄物処理に関する法規制も年々強化されてきています。廃棄物リサイクル事業は、したがって、労働災害の防止と法令順守にとくに力を入れなければならない業種であると言えます。昨年の第三者意見でも述べましたが、この点、スズクグループは、法規制の順守と労働環境の安全確保を図るために、グループ横断的な取り組みを有効に活用しています。法規制の順守については、年間4回の内部監査を行うとともに、委託先事業者に対しても訪問審査を実施しています。労働安全衛生については、研修において過去の事故事例をグループ内で共有することを通じて、事故総数を確実に減少させています。

### ■ 3年間の経年変化を追うことができるようになりました

昨年度の第三者意見では、グループ全体での継続的な改善が経年データで追えるようにすべきであるという意見を述べさせていただきました。今年の環境社会報告書では、グループ統合から4年が経ち、グループ全体のデータで3年間の傾向をつかめるようになりました。先に述べたように事故総数は着実に減少する一方、再生資源出荷量あたりのCO<sub>2</sub>発生量が増加傾向にあります。この点は、原因を精査し、少なくとも原単位が減少傾向に向かうよう努力を行う必要があります。また、再生資源出荷量あたり発生廃棄量といった指標も経年で見るようにしていく方がよいと思います。

### 編集にあたって

本報告書は、グループ各社の持ち株会社スズクホールディングス(株)の設立(2007年7月2日)後、3回目の環境社会報告書となります。スズクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境・社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しています。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後も更に報告内容の充実を図って参ります。

#### ■ 報告対象範囲

スズクホールディングス(株)とグループ会社8社を報告対象としています。(24-25ページ参照)

#### ■ 対象期間

2009年7月から2010年6月  
※グループ各社の経営数値や環境負荷の数値などは、用いた期間を明記しました。

#### ■ 次回発行予定

2011年9月の発行を予定しています。

## CONTENTS

|                               | PAGE |
|-------------------------------|------|
| スズクグループ企業理念                   | 02   |
| トップコミットメント                    | 03   |
| スズクグループが目指す「共生」               | 04   |
| <b>T O P I C S</b>            |      |
| 1 「まず、お客様ありき」                 | 06   |
| 2 地球温暖化を防ぐ                    | 07   |
| 3 新事業と操業安定化へ                  | 08   |
| <b>C O L U M N</b>            |      |
| 「数字で見る環境・社会報告」「共生」を目指すグループの実績 | 09   |
| <b>R E P O R T</b>            |      |
| 1 環境経営による資源リサイクルの推進           | 10   |
| 2 環境マネジメントシステムの活動             | 12   |
| 3 労働安全衛生活動の推進                 | 14   |
| 4 コンプライアンスの徹底                 | 16   |
| 5 地域・社会との共生                   | 18   |
| 6 多様な人材の活用                    | 20   |
| <b>P R O F I L E</b>          |      |
| グループ概要                        | 22   |
| グループ会社紹介                      | 24   |
| 許認可等                          | 26   |
| 第三者意見                         | 27   |





「エイブルアート・カンパニー」登録作品より

## 石田 匠永「木」

エイブルアート・カンパニーは障害のある人のアートを社会に発信し、〈仕事〉につなげる中間支援組織です。アーティストの作品を商品化したり、デザインとして使える仕組みをつくっています。

URL <http://www.ableartcom.jp/>



## 「いつも心に」

規律とルールについてグループ全員が各職場で真剣に討論した結果を200頁を超える冊子「いつも心に」にまとめました。当グループの文化として意識を高く持っていきたいと思います。



## グループ紹介誌「ecoo」のご案内

スズトクグループは、グループ紹介誌「ecoo」(エクー)を年2回発行しています。社外関係先の方々に配布する他、グループ従業員の意識共有やコミュニケーションに役立てています。弊社ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

## スズトクホールディングス株式会社

本社

〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19

お問い合わせ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル

TEL: 03-3293-6302 FAX: 03-3295-7169

ホームページ <http://www.suzutoku.co.jp/ho/>



この「環境社会報告書2009」は古紙パルプ配合率100%のリサイクル紙と、VOC(揮発性有機化合物)の発生が少なく生分解性や脱墨性にすぐれた大豆インキを使っています。

有機溶剤等を使用しない環境に優しい「水なし印刷」で印刷しています。